

## 平成 28 年度 防災講演会を開催しました

### 「大震災自閉っこ家族のサバイバル～あの時なにがあったのか～」

11月2日水曜日、学校とPTA本部共催で10時30分から12時まで本校保護者、防災教育推進委員、地域関係機関の皆様、14時55分から15時55分まで教員を対象として防災講演会を開催しました。講師には、はじめて「3・11東日本大震災」被災地、宮城県仙台市から高橋みかわ様（講師プロフィール参照）にお出でいただきました。

高橋みかわ氏 <講師プロフィール>

宮城県出身。看護師。現在、宮城県仙台市在住。重度の知的障がいと自閉症をもつ26歳の青年の母親。東日本大震災時、ブログや携帯メール「みかわや通信」を発信し多くの自閉っこママたちを励まし続けた。自閉症支援や大震災当時の体験について全国で講演活動を行っている。2014年エイボン復興支援賞受賞。

著書：「重い自閉症さぼーとブック」「大震災自閉っこ家族のサバイバル」（共に、ぷどう社刊）。

講演では、「日常の延長上に災害は起こる」という点を認識することからお話しが始まりました。そして、大震災の揺れの直後に高橋様がお自宅で取られた行動（「出口の確保」「プレーカー火災への対応」等）、お子さんの特性から高橋様が選択した自宅避難生活の安定がお子さんの安定にかかっていたという点から、①環境整備（日頃の行動やこだわりから予測される事態への準備をお子さんの迎える前に行ったこと。床の飛散ガラスをガムテープ除去しお子さんが帰宅後に動けるルート確保、自宅で落ち着ける場所の確保、日頃から子どもの特性に応じて、安心できる場所、グッズ、食べ物の準備の重要性）②混乱させないかわり（水道などライフライン途絶がもたらすパニック未然防止、手洗いのこだわりへの対応シミュレーションと支援の工夫、※著書に詳しくあります。）③でんと構えること（子どもが信頼する支援者が落ち着くと、子どもも落ち着く）④子どもの生きる力（その子なりの方法で「拒否・要求・SOS」が発信できるコミュニケーション力、妥協・自己調整力の大切さ、日頃の訓練も子どもたちがイレギュラーに対応できる力を高める訓練にすることは、災害時のサバイバルだけでなく子どもの未来に備えることになる）について具体的で分かりやすく、時に熱く、時にユーモアを交え、参加者への質問なども織り交ぜながらお話しいただきました。また、飲料水と生活用水を別に準備をする（風呂水をためておく）、車のガソリンを半分以下にしない、子どもの通学経路やスクールバス経路の把握、津波対応で車の窓ガラスを叩き割るための道具の重要性などのお話しもいただきました。



90分の講演時間はあっという間で、お聴きした被災当時の体験、教訓から、多くの学びと今の課題を考えるきっかけをいただき、それぞれが今後の防災対策について見直し、意識を高めていく機会となりました。本校も「生活用水確保」、「安否確認（各家庭の大規模災害時の自宅以外の避難先、緊急連絡先把握、スクールバス乗車時の対応再確認）」、「避難所運営方針（特性による住み分け）」等、対応すべき課題が明らかになりました。参加した皆様や教員から、まだまだお話しをお聴きしたかったとの感想、要望が多数寄せられました。是非、次の機会も検討できれば幸いです。参加された皆様、ありがとうございました。そして、朝早くから、遠路お出でいただいた講師の高橋様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

（文責： 赤荻 浩之）